

東部日本語ボランティアネットワーク 第29回定例会(対面+zoom)

2021年12月11日(土) 14:00~16:00

参加者：高澤・相田・虎谷(沼津)、石井・佐野智(三島のびっこ)、佐野由・伊藤(裾野)、山口(大仁)、久木野(伊豆の国)、古橋(SIR)、杉本・望月(富士宮)、香川・影山(函南) *下線はZOOM参加者
合計14名

(1) 東部ネット入会ルール策定

東部ネットの趣旨を参加メンバーで確認後、入会についてのルールを以下のように決定した。

①入会希望

入会希望者は、名前、連絡先(メールアドレス)、所属団体について、東部ネット内で公開する旨承諾し、代表に申し出ること。

②入会許可

代表は、入会希望者からの申し出に対応し、希望者が入会条件を受諾した旨確認後に入会を許可する。

③会員による紹介

入会希望者に対して会員がすることは、代表のメールアドレスを教えて、入会希望を出してくださるようお願いすることと、活動内容を適宜説明することのみとする。

(2) 活動報告

●香川(函南町都市交流協会)

- ・函南町の現状 これまでは在住外国人支援活動を重要視していなかった
行政が外圧を受けて日本語教室開設に興味を持ち始めている
個人ボランティア(ベトナム人女性)に対して行政が聞き取りをしてきた
そのベトナム人女性にきいたところ、2-3人は日本語学習に興味があるようだ
現在の「都市交流協会」はアメリカの姉妹都市との交流を中心とした組織
人材的にも経験的にも動機として、在住外国人への支援は困難だと感じている
- ・個人的な考え
 - ①伊豆の国市のやり方に倣い広域で協働運営という形で行う 伊豆の国市(にはんご話そう会)の分校
 - ②都市交流協会とは別の組織を立ちあげて行う

●影山(函南町)

- ・基本的な町の情報は香川さんと同様
- ・個人的に 香川さんの②別組織の立ち上げに興味あり
学習オンラインベース(国際交流基金のe-learning活用)で、日本人は「やさしい日本語」を教材研究で学び、出会いの場を活動主体で行いたいと考えている。
→2022年夏にメガソーラーが止まるかどうか判明するため、その後開始する。
メガソーラーができた場合は、函南町で外国人支援は行わない

●山口（伊豆の国市 大仁にほん語かいわ会）3～6人程度で継続

- ・県から多文化共生賞を受賞 静岡県社会福祉協議会の youtube で見られる

<https://www.youtube.com/watch?v=RIEjWqUc9xQ&list=PLG3cX1h7g8XG7VLMNNoxZaLHWgaedwo1U6&index=7>

- ・マックスバリュ修善寺店 イエローシート（共感する団体への寄付）の対象団体にしてもらった 買い物の機会があればレジ近辺を見て投票をお願いしたい
- ・沼津市スピーチコンテスト ベトナム人男性がひとり参加した

●高澤（沼津にほんご教室、ふじのくに多文化共生ネット）

ふじのくに多文化共生ネット活動報告

- ・Facebook での情報発信

多言語コロナ情報、日本文化紹介、やさしい日本語のニュース、生活支援、在留支援等生活者としての外国人に役に立ちそうな情報およびウェビナー、シンポジウム等の情報をシェアしている。

- ・2022 年度の活動予定作成、イベントの共催団体募集、沼津市ボランティア協議会理事会出席、沼津市まちづくり関連団体との情報交換。
- ・12月5日(日) 国際ボランティアデー記念ワークショップ、講演『組織と地域を持続可能なものしていくために』に参加。(12月5日は、世界中のボランティアの意義を認知・推進することを目的として国連によって定められた国際デーのひとつです。)

講師は IHHOE「人と組織と地球のための国際研究所」代表川北秀人氏。以下講演概要。

「持続」というのは、これまでのやり方をこれまでと同じように続けていくことではなく、これまでの活動を続けていくことができるように進化し変わること。これまでの延長線上で考えないで、これまでの20年を振り返り、変化し続ける社会に適応できるようにこれからの20年に備えること。組織の棚卸をすること。女性の役員を増やすこと。『オレの目が黒いうちはアイツにはやらせない』なんて言っているようではダメ。『苦しくても未来のために決めて動こう！』という人を離してはいけない。

沼津国際交流協会(予定)

- ・2月12日(土)に「沼津にほんご教室」の日本語ボランティア勉強会を予定している。

外国人学習者から見た日本語学習をテーマに、静岡文化芸術大学の講師(外国人)に、外国語としての日本語をどのように学んだか、またその後、教える立場になってから留意している点などについて話してもらう予定。また、今年の夏に開催されたオリンピック・パラリンピックで、大会ボランティア・都市ボランティアとして活動した高澤が、オリパラボランティア、国際大会のスポーツボランティアについて紹介する予定。

- ・2月26日(土)14:00～ 沼津国際交流協会主催の講演会を予定している。

テーマ『これからの時代に求められる新たな国際交流の在り方』

講師 (一財)ダイバーシティ研究所 田村太郎氏

場所 沼津市立図書館四階視聴覚ホール

対象 沼津国際交流協会会員、一般市民

●佐野（智）（のびっこクラブみしま）

- ・現在体調のこともあり ZOOM で参加 中学生の支援をしている
- ・オンラインで自分も子供たちも活動しやすい
- ・外国ルーツの子供の勉強は大変だが可能性は大きいと感じている

●伊藤（裾野市海外友好協会）

- ・東部ネットは初参加 今日様子見
- ・裾野はボランティアの歴史は長い
学習者の人数には波がある 現在は10名以下
緊急事態宣言中はストップしていたが、解除後はぼちぼち
新規の人は予約をしてもらい待機（定員制）
- ・ボランティアだが交通費は支給されている

●佐野（由）（裾野市海外友好協会）

- ・友好協会発足40年で様々なイベントが開催される。パネル展示等で結構大変
- ・待機リストにスリランカの人が多い
- ・定住（奥様）たち 一時勉強しその後箱根のホテルで働いていたが、休みをとって続けてきている
- ・コロナ前は盛大に忘年会をしていたが、今年は飲食なしで発表会をする予定

●杉本（富士宮市国際交流協会）

- ・コロナ禍でもずっと対面で継続している
- ・学習者はベトナム人が減り、定住の人たち（中国人等）が増えている
- ・日本語指導コーディネーターについて、富士市は活発 富士宮はおとなしめ

●古橋（静岡県国際交流協会 近況報告）

- ・県：地域日本語教育 今年度新規 牧之原市・袋井市
夜間中学設置 磐田（本校）三島（分校）*磐田の先生がオンライン三島へも対応
外国人の入学には説明が必要
日本語教室ではなく「学校」であること それも伝える必要あり
- ・高校生 日本語指導事業
沼津市誠恵高校（GGAが協力） 浜松北 定時制
当初広域オンラインでと思ったが、理解が得られず難しかった
中退者/定時制の外国人青年たちへの支援
職業体験などができたらいい
ワークブック等も作成したい
- ・1月23日 県のボランティアセミナー 応募してください
- ・コロナ禍でのボランティア教室（対面）の継続の難しさ
オンラインへ切り替えられたところが少なかった
対面だと企業や家族から参加を止められてしまう

●久木野（伊豆の国市・にほんご話そう会）

- ・コロナ禍で生徒が来なくなった（1～3名程度）
- ・日本語だけでなく、稲刈りや芋堀会など文化的なこともやっている
- ・市から補助金をもらっているが、情報開示等がないので限界を感じている
- ・歴史のある会なので、我慢してこのまま継続していく

●虎谷（沼津国際交流協会、親子にほんごひろば、日本語指導コーディネーター）

- ・親子にほんごひろば 緊急事態宣言中、まん延防止の時は休会だったので、参加者は少なくなったが、継続している
- ・日本語指導コーディネーター これまで声のかからなかった市町の学校も派遣要請を出してくれ訪問している
- ・今年度は遊びと学びをテーマに教材を作って、実際に学校現場で紹介し試してもらっている。

●石井（のびっこクラブみしま）

- ・緊急事態宣言の時は ZOOM で行った 入ってこない子も多かった
5冊束のノート&オリンピックのノベルティをもって家庭訪問をした
- ・10月から三島北小教室を再開したが、コロナ禍の人数制限があるので受験生限定にした
- ・現在は対面のみ（三島北小）で、受験生限定も外した
- ・来られない生徒さんには、オンラインで個別対応をしている
- ・対面が好ましいが、対面でやりきれない部分は ZOOM でカバーをしている
- ・11月は JLPT 対策で午前中は三島北小、午後は本町タワーで特訓をした
- ・外国人枠で高校入学した2人の AO 入試サポート 来日3~4年で受験国語への対応は難しい
- ・1月9日（土）午後@三島市民生涯学習センター（三島市立図書館）

静岡県労働雇用政策課主催 定住外国人ロールモデルワークショップ

裾野市在住フィリピン出身の女性が発表します

- ・2023年度、夜間中学が開講される…第2回コロナ禍調査の設問にも入れた（調査へのご協力を〜）
- ・11月 ヒューマンライブラリを個人的に始めた@三島市民生涯学習センター
11月~2月 対話イベントを実施する

●相田（沼津にほんご教室）

- ・学習者が5~10名と相変わらず少ない。リモート開催の検討についても相変わらず進める様子はない。
- ・スピコンは予定の10月にはできなかったが、日程をあらためて発表会だけ行った。審査はせず参加賞を渡した。発表者の方々はしっかり準備なさっていて、ありがたかったです。

●望月（富士宮市国際交流協会） 事後メール（機材不備のため会議での報告が難しかった）

富士宮の国際交流日本語支援委員会の活動報告、杉本さんに付け足しです

1. 学校支援小学校5校、中学校1校 6校 生徒10名
支援委員会の委員8名がそれぞれの生徒の日本語力に合わせて、週1, 2回 1, 2時間支援授業で付き添うあるいは放課後個別指導（授業時間での別支援はしない）
支援者は ACC 主催「日本語支援者養成講座終了」元日本語教師、退職教員等
2. 市内在住の外国人対象に年3期（1期10回づつ）にほんごクラス開講
2021年度は1期は休止 2期9. 10. 11月 3期1, 2, 3予定
中国人4名（仕事や結婚）コロンビア（結婚）カナダ（東高校 ALT）
3. 明日12・12（日）牧之原市日本語教室視察
富士宮市役所市民交流課が市内在住の外国人への日本語教室を開催したい
県主催です2箇所で開催されているのを視察し、開催申し込みにあたり
計画を立て組織を作りましょうと市民交流課職員2名、ACC 教員2名
市国際交流委協会職員1名、我々委員会2名参加

●西村（Grandeur Global Academy 沼津校） 事前メール

西村久美子です。

外国人の入国制限により、ほとんど1年間、私費留学生も技能実習生も、日本に来ていません。

日本語学校も、管理団体も、企業も・・・とても大変な1年でした。

母国の皆さんもショックを隠せずにいます。

そんな中でも、地域からは、生徒の支援、ビジネス日本語、介護関係などのご依頼があります。

日本語教師は、さまざまな専門分野を指導するスキルを求められつつあり、ただ日本語を教えればよいという状況は終わっていると思います。

それから私が所属する会社は、日本語教育以外の新しい教育事業に取り組み始めました。

その中で感じるのは、外国人だけでなく、地域のダイバーシティをどう実現するか・・・です。

外国人も日本人も、大人も子供も、障害がある方もない方も、支え合っていける取り組みができるといいな・・・とっております。

簡単ですみませんが、今後ともよろしく申し上げます。

(3) フリーディスカッション

- ・伊豆の国市の外国人児童について 久木野→虎谷

派遣要請が出てきている

非常勤の先生がとてもよくて子供が伸びている（菰山小など）

- ・杉本さん 虎谷さん 取り出しするのか？ 古橋→虎谷

最初は取り出しで教えることもあるが、その後は基本なし

非常勤の先生にお願いしている

- ・高校生の支援 国籍は？ 佐野→古橋

国籍はバラバラ

選抜校である裾野高校を目指す、不合格だと私立高校にバラバラに存在

中学ー高校の連携をしてほしいが困難

西部の状況 小中で外国人がバラバラにいるが、高校で固まる（特定高校に50~100人）

既にマイノリティではなく、諦めや中退等につながりやすい

東部は点在しているため、埋もれてしまうが日本語を使わざるをえない状況

- ・定時制特有の課題

昼間時間が取れない

高校無償化の流れで私立高校に流れている

→（佐野）のびっこから私立高校に行っている子もいる 生の声を聴きたい

中学から高校に行くときが分岐点になる

→（高澤）全日制の私立高校に行く子たちは、親に経済的な余裕がある子が多く、私がこれまでに教えてきた生徒は全員が母国または英語圏の大学に進学しており、日本には残っていない。

→（石井）私立高校に行った子 ロールモデルは大事

- ・ヒューマンライブラリ（12月：インドネシア技能実習生 1月：ベトナム人会社員）